

# 「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革 によるグローバルな医師養成」事業の 実績・効果等(H24年度)

## 事業名

- (A) 医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成
- (B) グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実
- (C) 医学・歯学教育認証制度等の実施



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「(A)医学・医療の高度化の基盤  
を担う基礎研究医の養成」  
事業の実績・効果等  
(H24年度)

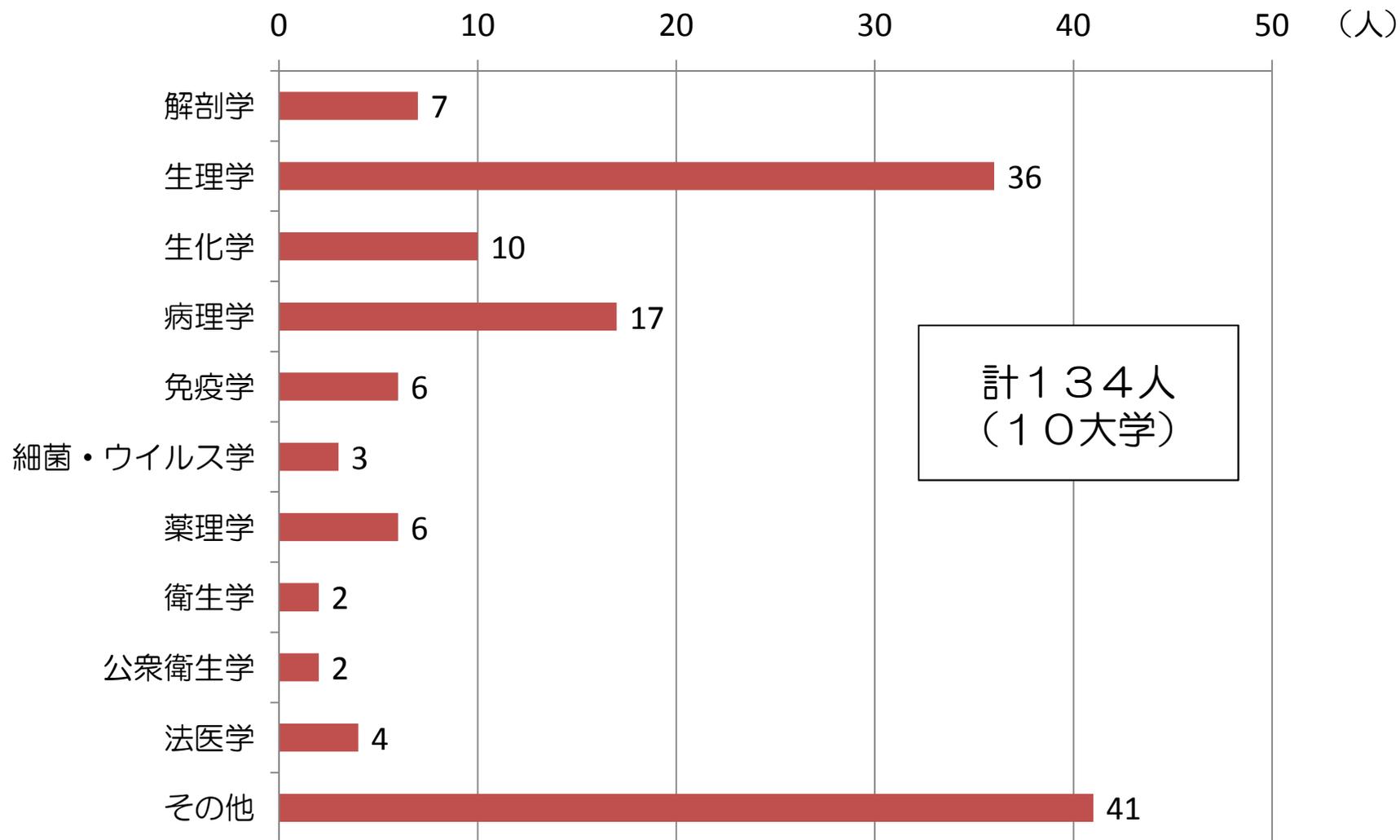
# 「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」コース別受入れ人数

文部科学省医学教育課調べ（H25.2.1現在）

No	大学名	プログラム名	コース名称	H24年度受入れ人数		
				学部	大学院	合計
1	東北大学	世界で競い合うMD研究者育成プログラム	研究成果展開コース	3	-	3
2	群馬大学	卒前・卒後一貫MD-PhDコース	卒前・卒後一貫MD-PhDコース	20	1	21
3	東京医科歯科大学	シームレスな次世代研究者養成プログラム	研究実践プログラム	15	-	15
			研究者養成コース	4	1	5
4	山梨大学	リエゾンアカデミー研究医養成プログラム	リエゾンアカデミー研究医養成コース	10	-	10
5	滋賀医科大学	産学協働支援による学生主体の研究医養成 ※H25年度から開設	研究医養成コース（公衆衛生学コース）	-	-	0
			研究医養成コース（法医学コース）	-	-	0
			研究医養成コース（病理学コース）	-	-	0
			研究医養成コース（分子医科学コース）	-	-	0
6	神戸大学	基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成	基礎医学研究医育成コース	8	-	8
7	愛媛大学	医学科大学院からの基礎研究医養成コース	医学科大学院制度からの富士山型基礎研究医養成コース	37	-	37
8	熊本大学	柴三郎プログラム：熊本発 基礎研究医養成	柴三郎コース ※H25年度から開設	-	-	0
			プレ柴三郎コース	4	-	4
9	札幌医科大学	死後画像診断力のある死因究明医養成プラン	死因究明医専修プログラム	3	-	3
10	順天堂大学	基礎研究医養成のための順天堂型教育改革	基礎医学研究者養成コース（Aコース）	1	-	1
			基礎・臨床統合型研究者養成コース（Bコース）	27	-	27
計				132	2	134

# 「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」 分野別受入れ人数

文部科学省医学教育課調べ（H25.2.1現在）



# 「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」事業の効果等

※事業推進責任者等へのアンケート調査(H25.2)より

## 事業の実施前後で最も大きく変わった点

### 【実施体制の強化】

- ・医学部全体で支援する体制が整備(経費支援、学内規定改正等)
- ・事業に係る専任教員やポスドクが配置された

### 【教員の意識変化】

- ・研究医養成の重要性への理解が医学部全体に徐々に浸透
- ・基礎系教室における学生に対する情報発信への努力や対応の変化が見られる

### 【学生数の増加】

- ・コース対象学年の拡大により、参加する学生数が増加
- ・学生が研究活動に積極的になった  
(学会の学生会員数、学会発表数、英文論文数等の激増)
- ・市民や中高生、マスコミ等への広報活動により、問合せや講演依頼が多数あった

## 課題

- ・臨床系の講義・実習のため時間的制約があり、研究を継続、モチベーションを維持するための方策が必要
- ・学生数増加による研究場所の確保や実験機器・試薬等の調達
- ・学会で発表できるレベルの研究にすること、英文論文のレベル(インパクトファクター)の向上
- ・後期研修と大学院の両立を希望する学生が多い

## 最も大変だった点、その際に工夫した点

### 【教育プログラムの構築】

- ・バラバラに行われていた研究教育を一連のプログラムに再構築
- ・卒後臨床研修に支障がないよう、e-learningシステムを構築
- ・既存のコースと新たなコースについて、細部にわたり調整

### 【学生への広報活動】

- ・学年ごとに繰り返し説明会を開催
- ・説明会の反応が乏しかったため、研究サークルを巻き込んで、学生の主体性を育て、サポートするスタンスに転換
- ・外部研究者や岡山大学ARTプログラム修了者によるセミナー開催

## その他の留意点、ポイント等

- ・学生を学生扱いせず、独立した研究者として処遇することが大切
- ・低学年の学生を研究に触れさせ、興味を持たせることが重要
- ・指導することこそ最善の学習方法(屋根瓦式の大学院生・学部生による後輩指導を導入)
- ・学生からの問合せが増え、学生のニーズや実態把握ができた
- ・学生や研修医への広報活動に重点を置いた(Webサイト、説明会、セミナー、パンフレット等)
- ・基礎系研究室が賑やかになり活性化された

「(B)グローバルな医学教育認証に対応  
した診療参加型臨床実習の充実」  
事業の効果等  
(H24年度)

## (B)グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実(選定結果)

No.	大学名	区分	プログラム名称
1	筑波大学	国立	高い実践力を育む大学ー地域循環型臨床実習
2	信州大学	国立	150通りの選択肢からなる参加型臨床実習
3	京都大学	国立	国際交流を拡充したタスク基盤型の臨床実習
4	岡山大学	国立	脱ガラパゴス！ー医学教育リノベーションー
5	琉球大学	国立	グローバル&ローカル対応琉大ポリクリ方式
6	札幌医科大学	公立	地域拠点と連携によるICT連動型臨床実習
7	京都府立医科大学	公立	診療参加型臨床実習の質保証システムの確立
8	自治医科大学	私立	国際的な地域医療教育の構築
9	東京慈恵会医科大学	私立	参加型臨床実習のための系統的教育の構築
10	東京女子医科大学	私立	国際基準評価で質保証される実践臨床実習

# 「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」事業の効果等

※事業推進責任者等へのアンケート調査(H25.2)より

## 事業の実施前後で最も大きく変わった点

### 【教員の意識変化】

- ・診療科の垣根を越え、医学部全体で取り組む意識が共有された
- ・指導教員等の目的意識が向上

### 【教育環境の向上】

- ・学生1人1台PHSが配布され、指導医からの連絡が容易になった
- ・屋根瓦方式による指導体制を導入
- ・多職種との実習現場での連携が強化

### 【臨床実習期間の拡大】

- ・臨床実習期間が大幅に拡大
- ・e-learningの活用等により90分講義を60分に短縮することで臨床実習時間を確保

### 【臨床能力の評価】

- ・臨床実習評価を可視化(電子ポートフォリオ、Student log等導入)
- ・卒業要件としてAdvanced OSCEを導入
- ・筆記試験を中心とした卒業試験の廃止を検討

## 課題

- ・共用試験の実施時期の弾力化
- ・評価の標準化と各科の理解・協力を得ること
- ・地域病院への学生の旅費の捻出に苦慮

## 最も大変だった点、その際に工夫した点

### 【学内外の調整】

- ・各診療科への実習期間の配分調整が難航。十分な協議を行う。
- ・負担面からの教員の反対や新カリキュラムへの学生の不安があった。スモールミーティングやFD、学生向け説明会、個別面談等により丁寧に説明し、可能な限り意見を反映。
- ・臨床実習コーディネーターがリーダーシップを執れるよう、内規で学内での位置付けを明確化
- ・学外医療機関との連絡調整や規格の統一等に労力を要したが、担当者との連絡を緊密に取りながら作業を進めた。

### 【教育の充実】

- ・海外の大学から専門家を招へいし、FDや意見交換会を実施
- ・地域病院の指導者に対する臨床教授等の称号付与制導入等により、意識向上、情報共有化を促進
- ・今後、BSLが可能な海外の提携大学数を増加

## その他の留意点、ポイント等

- ・地域病院間で指導体制等に違いがあるため、出張FD等が必要
- ・実習が地域病院へ丸投げにならないようTVカンファレンスを企画
- ・学生、研修医が教育の議論に参加できるシステムを検討中
- ・本事業により、学内での改革提案への理解を求めやすくなった

「(C)医学・歯学教育認証制度等の実施」  
事業の実績等  
(H24年度)

# 大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

## 事業の目的

日本の医学部・歯学部が国際標準の教育を実施していることを証明するとともに、国際標準を超えるグローバルかつ優れた医師・歯科医師を養成するため、日本における国際標準の医学・歯学教育認証制度等の基盤を構築することを目的として実施（H24～28予定）。

## 選定大学

分野	大学名	連携大学	プログラム名称
医学	東京医科 歯科大学	千葉大学 東京大学 新潟大学 東京慈恵会医科大学 東京女子医科大学	国際基準に対応した医学教育認証 制度の確立
歯学	東京医科 歯科大学	新潟大学 九州歯科大学 東京歯科大学 大阪歯科大学	歯学教育認証制度等の実施に関する 調査研究

# 医学教育認証制度等の実施

## 24年度の主な取組状況（医学）

H24.7

世界医学教育連盟(WFME)グローバルスタンダード準拠  
医学教育分野別評価基準日本版作成(日本医学教育学会)

H24.10.29～11.2

東京女子医科大学グローバルスタンダードによる国際外部評価

H24.11.29

第1回医学教育の質保証検討委員会開催  
(全国医学部長病院長会議)

- ①認証GP進捗状況報告
- ②東京女子医大外部評価報告
- ③台湾、韓国認証制度報告
- ④今後の方針、日本医学教育認証評議会(JACME)設立について

H25.2.22

公開シンポジウム「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」開催

## 25年度以降の取組（医学）

○WFME等の基準に合致し、国際的認証機関に認知されるべく

FAIMER( Foundation for Advancement of International Medical Education and Research)、WFME(World Federation for Medical Education)等の海外関連団体との調整



国際標準を満たした日本の医学教育分野別評価を導入

○2023（H35）年のECFMG新制度に対応すべく

H25年度～

文科省大学改革推進等補助金事業の連携校によるトライアル評価を実施

H26年度～

順次実施（2023年までを目標）

# 歯学教育認証制度等の実施

## 24年度の主な取組状況（歯学）

H24.8～

歯学教育認証評価検討WG幹事会開催

H24.10～

歯学教育認証評価検討WG開催

H24.10～

諸外国での認証基準と認証評価の視察・調査

H24.12

評価項目検討のためのWS開催（認証評価検討WG委員）

H25.3.5

歯学教育認証評価検討WGシンポジウム

「日本の歯学教育認証評価のあり方について」開催

## 25年度の取組（歯学）

- 認証評価基準のブラッシュアップ
- 認証評価実施組織の設置に向けた検討
- 文科省大学改革推進等補助金事業の連携校によるトライアル評価を実施